

令和4年度

事業報告書

社会福祉法人やまなみ会

インターワーク

目 次

1	はじめに	1
2	全体状況報告		
	(1), 重点項目（目標）に対する報告及び考察	1
	(2), 利用者状況	1
	(3), 行事等	2
	(4), 職員状況（人員、資格取得、研修等）	2
3	個別事業報告		
	(1), 珈琲部門	3
	(2), 生産部門	3
	(3), 加工部門	4
	(4), 販売活動	4, 5

1 はじめに

新型コロナウイルス感染症予防への対策がようやく終息を迎えようとしており、販売会やイベントの開催が徐々に復活しているものの、参加実績は例年に比べるとまだまだ低い状況にある。その反面、委託店舗の新規契約は増加、施設外作業での実習費も安定し収益は上昇傾向した。

利用者の状況については、高齢化による持病の悪化や能力の低下などによって減員や就労活動時間の短縮、就労から生活介護への移行と、労働力の低下が目立った。特にB型においては定員25名に対し現員13名となり、引き続き新規利用者の獲得が必要であり、本年4月からのウィルアークスとの統合を受け、常に新しい取り組みを考え利用者の作業意欲や工賃の向上に努めていきたい。

2 全体状況報告

(1) 重点項目（目標）に対する報告

- ・施設外等の作業も増え、利用者へ多様な就労機会が確保できた。
- ・各部門との連携をはかり、職員数の少ない中でも事業推進できるよう改善できた。
- ・個別支援計画に基づき利用者のニーズに沿った支援を行い、個性を尊重しながら過ごしやすい環境づくりができた。
- ・利用者の健康チェックを確実に実施し、常に職員間での情報共有を行い感染症などの予防が徹底できた。

<次年度への提起>

ウィルアークスとの事業所統合を受け、研修会等への参加を積極的に行い、職員間での情報共有を徹底してより一層、質の良いサービスが提供できるよう努力していく。

(2) 利用者状況（令和5年3月末現在）

就労継続支援B型事業はA型からの移行が2名、また生活介護への移行者が1名と増減があり、生活介護事業はB型からの移行者と新規利用者を含めて2名増加した。

・利用者状況

サービスの種類	定員数	利用者数
就労継続支援B型	25名	13名
生活介護	6名	5名

<次年度への提起>

支援学校や相談事業所への情報提供等を行い、新規利用者の受け入れを進めていく。

(3) 行事等

バーベキュー会食の開催をおこなった。また、毎月の買い物支援を計画し社会体験を兼ね外出する機会ができた。新型コロナウイルス感染予防の状況に応じ開催できなかったものもあった。

<次年度への提起>

今後はさらに、利用者が楽しめるイベントを引き続き計画し開催できるようにしていく。

(4) 職員状況（人員、資格取得、研修等）

施設業務に関連した専門知識の向上や習得を図るための各種研修会の参加は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、最小限での参加とした。

主な参加研修会及び講習会

期日	参加研修及び講習会	参加人数
5月25日	第1回熊本県社会就労センター協議会施設長会議	1名
10月24日	第1回工賃向上計画支援研修会（オンライン）	1名
11月25日	第1回施設長・職員研修会（オンライン）	2名
12月7日	第2回熊本県社会就労センター協議会施設長会議	1名
2月7日	社会福祉法人労務研修会	1名
2月8日	社会福祉法人制度改革対応セミナー	1名
2月21日・22日 28日	熊本県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者 実践研修	1名
3月14日	指定障害福祉サービス事業者等集団指導（オンライン）	2名

3 個別事業報告

令和4年度工賃実績（就労B型） 18,584 円（平均工賃）

新型コロナウイルス感染症対策により、居室待機による療養や作業時間の短縮等をせざるを得ない状況にあり、昨年の平均工賃額20,926円を下回った。

次年度は、さらに高い平均工賃を目指して引き続き就労活動に取り組んでいく。

(1) 珈琲部門

a. 珈琲焙煎

品質向上に力を入れるため、豆の選別を強化、焙煎時の焼きムラをなくすよう温度・湿度の管理を充分に行い、味と香りの安定へとつなげた。また季節ごとの贈答ギフトに加え、ふるさと納税返礼品（村や県）へ出品登録するなど進物品の幅を広げた。

b. ドンゴロス

より耐久性を高めるための工程（縫製方法や裏地の芯地追加）を増やし改良を行った。また、製品の仕様数を増やす為の考案や、現状に合った商品（マスクケース等）の開発にも努めた。同時に、効率の良い作業ができるよう器具・材料の保管場所を明確にして作業の時間短縮に繋げ、材料は無駄なく使うことでコストの削減に努めた。

<次年度への提起>

従来の商品に加え、アレンジバックやより活用性の高い多様なデザイン等のドンゴロス製品の考案や製作にも力を入れ販売会などで展開していく。さらに、物価高騰の世情に対応すべくため、販売価格の見直しを検討する。

(2) 生産部門

a. 畑生産

ブラックベリー生産量は上がらなかったが、弱った苗木の立て直し、堆肥の追加、支柱の仕立直し等を行い次期の収穫増加へとつながるよう努めた。

b. 施設外実習

新規での実習契約はなかったものの、通年での作業が見込める実習先は継続し、利用者の多様な就労の機会及び収益の確保ができた。

<次年度への提起>

引き続き、畑内の除草作業や定期的な堆肥の追加、苗木の剪定を行っていく。また、食品加工に使用する特産物（ニンニク等）の生産にも引き続き取り組んでいく。

(3) 加工部門

a. 酵素

衛生面を特に強化するため、製品密閉後の滅菌工程を増やした。商品の差別化をはかり取引先独自の商品づくりに努めた結果、OEM の注文数を増加させた。また、試作を繰り返し、商品のアイテムも増やした。

b. にんにくみそ

にんにくみそ2種、にんにく肉みそ2種ともに「梅の花由来の乳酸菌」を入れ、より健康志向を高めた商品づくりを行った。また、無添加みその種類を厳選し、品質の改良を行った。商品の高評価につき、原料の生にんにくが不足する状況にあった。

c. ドレッシング

醗酵野菜を使用したことで健康の注目度が上がり、大口の発注にも問題なく対応及び製造ができた。

d. 委託作業

お菓子の香梅（製函・ナイフ挿入作業）、有限会社グリーンファーム波野（誘引ひもカット及び巻き付け作業）の作業を通年して行っている。さらに定期的にフェルトカットやシール貼り、衣類の検品等の軽作業も、依頼時に都度対応している。

<次年度への提起>

食品製造では衛生面の徹底を行い、引き続き品質の良い商品づくりに努めていく。また、原料であるにんにくの生産を強化する。

(4) 販売活動

産山村や熊本県のふるさと納税返礼品へ出品登録し、売上へとつなげた。ライン公式アカウント開設ややまなみ会ホームページによる情報発信や、売上上昇に繋がった。また、希少な販売会等のイベントにも参加でき売上だけでなく商品のPRの場にもなった。委託店舗においても、コロナ禍での閉店等で契約解除となった店舗もあるが新規契約数もあり、いずれも売れ行きは好調である。

令和4年度販売会等参加一覧

イベント名	期日	場所	売上額 (円)
おとなりマルシェ阿蘇 販売会	9月28日	第一生命 (阿蘇営業オフィス)	27,360円
障がい者福祉施設商品等 展示・商談会	11月17日	熊本県庁 本館 地下大会議室	20,800円
計			48,160円

<次年度への提起>

新型コロナウイルス感染防止対策は徐々に緩和され、今後はますます販売会やイベント開催の機会が期待される。積極的に参加し、自施設の新商品をPRしていく場として今後も活用する。